

# Health

News for your life from  
Yamagata University Hospital



山形大学病院ニュース

# Safety

第23号

2013年4月

●山形大学医学部附属病院ホームページアドレス  
www.id.yamagata-u.ac.jp/MID/index.htm

よりよい病院を目指してー

我が国の医学教育は、国が定めた「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づいて行われています。

このモデル・コア・カリキュラムが平成22年度に改訂され、特に臨床実習教育の充実が重要課題とされ、その中でも「診療参加型臨床実習の内容充実と学生の医行為」、「地域医療実習充実」・地域病院や診療所などとの連携による地域基盤型教育(Community-based Education)の導入」が重点項目とされました。山形大学では、実践能力のある医師を養成し、地域医療レベルの向上を図るための様々な取り組みを行っておりますが、その取り組みの一つとして「山形県広域連携臨床実習」を紹介します。

この制度は、「地域が育てる医学生」を基本コンセプトとし、本医学部が持つ学生教育のノウハウと学生の評価システムを教育関連病院でも使用してもらい、山形県全体が一致協力することにより附属病院における臨床実習と同様な教育効果をもたらすように設計されております。山形大学医学部と山形県内の地域中核病院等が連携の上、卒前のStudent Doctorに対する臨床実習の充実を図り、地域医療の現実に学生時代から臨床実習を通して触れることは地域医療への理解を深め、結果として医学生の県内定着が推進されることが期待されております。山形県健康福祉部のバックアップの下、山形大学医学部が基幹校となり、平成24年1月16日から実施し、今年度で2年目です。

今年度は、昨年度からの公立置賜総合病院、日本

## 山形県広域連携 臨床実習の充実について

海総合病院及び山形市立病院済生館の3病院に加えて、山形県立中央病院、山形県立新庄病院、寒河江市立病院、鶴岡市立荘内病院、米沢市立病院、三友堂病院、篠田総合病院、山形済生病院、庄内余目病院の9病院が新たに山形県広域連携臨床実習病院として参加いただき、それぞれの病院が置かれる地域環境や特性を活かして医学生に対し臨床実習を行っていただいております。

具体的には、医学部の臨床実習のうち、5年生の1月から6年生の7月までに行われるクリニカルクラッシュ(参加型の臨床実習)のうち3分の1、つまり2つの地域中核病院で4週間ずつ実習します。



### 山形県広域連携臨床実習

—山形県地域連携医学教育プログラム推進事業—

山形大学医学部

#### <事業概要>

①山形県全体で「Student Doctor」(医学部で質を担保した学生)の臨床実習や医師の育成を行う体制を整備。(医学部と地域の中核病院が連携し「地域」で医師を養成)  
ねらい・卒前・卒業後の一体化  
・県内の医療機関への関心の向上  
・地域に根ざした医療人の育成、地域医療の発展

②初年度は、公立置賜総合病院、日本海総合病院及び山形市立病院済生館が参加。本年度は、県立中央病院、県立新庄病院、寒河江市立病院、鶴岡市立荘内病院、米沢市立病院、三友堂病院、篠田総合病院、山形済生病院、庄内余目病院が新たに参加。計12病院と拡大。翌年度以降も順次病院を拡大。

③山形県の「山形方式・医師生涯サポートプログラム」の一環として、県健康福祉部のバックアップの下、事業を運営。

内容……医学部の臨床実習のうち、5年生の1月から6年生の7月までに行われるクリニカルクラッシュ(参加型の臨床実習)を地域の中核病院で実施する。医学生のグループが附属病院と中核病院をローテーションしながら計6Phase(24週間)実施するもので、そのうち2Phase(8週間)を2つの中核病院で1Phase(4週間ずつ)実習する。

#### 医学教育の充実、医学生卒業後の県内定着を促進!

#### メリット

①医学部と病院が連携することで、リソースを有効に活用しながら、地域医療に関心の高い医療人を育成できる。

<大学・地域>

②地域特性を活かし現場において豊富な症例が経験できる(Student Doctorに対する指導の充実)。<学生>

③県内での卒業後臨床研修や県内就業へのモチベーションが高まる。<地域・病院> など



これまでは医学部附属病院を中心に臨床実習

地域の中核病院において積極的臨床実習 → 県内への定着が期待!

## タイ国マヒドン大学医学部ラマティボデイ病院

### との包括的協力協定の締結



示板による歓迎表示に出迎えられ、ウイニット医学部長をはじめとした7名のドクターの参加を頂き、名刺交換の後、双方の大学紹介から始められました。

根本がん臨床センター長によるプレゼンでは山形大学医学部の取組み、重粒子線がん治療の紹介がなされました。

山形名産である「おしん」や「山形新幹線」も披露され、終始和やかな雰囲気が進み、調印式は美しい花を前にマヒドン大学ウイニット医学部長と山下医学部長により滞りなく行われました。嘉山学長特別補佐からは同じく山形名産である全高60cmの「お鷹ぼっ

高度医療国際交流を推進する山形大学医学部では嘉山孝正学長特別補佐を団長としてタイ国マヒドン大学医学部ラマティボデイ病院との包括的な協力協定の締結を行いました。

マヒドン大学は「タイ近代薬学の父」と呼ばれるマヒドン王子（現国王陛下の父）の名前を冠する総合医科大学であり、1943年から70年の歴史を持ちます。

医、熱帯医、工、環境・資源、獣医など14の学部で構成され、特に医学部は1889年にタイ国内初の医療学校（シリアート病院）を起源としており、長い歴史と公衆衛生医学や薬学の分野で国際的に知られています。

ラマティボデイ病院では電光掲

渡され感嘆の声が上がりました。協力協定は山形大学医学部の特徴である、がん医療、コホート研究、在宅・看護医療を基軸とした人材育成（医師・コメディカル・先進医療教育・高度医療機器実習）に関して、マヒドン大学との人事交流を円滑に行うための基盤整備となります。

山形大学医学部における最先端医療技術と、タイ国の国際色豊かな医療サービスは相互に高めあい、これからの医療サビ

スの視野を広げ国際社会の様々なニーズに対応していく力になると考えられます。

また、重粒子線がん治療をはじめとする、日本の優れた高度医療機器を国内で実感してもらうことにより、高度医療機器の輸出産業促進にもつながられる期待もあります。

調印式のあとは旧病院・新病院の見学会が行われ、旧病院は日本国内の病院にも似た懐かしさを感じる風景。

専用のバギーで数分間ドライブを経て向かう新病院は、高い天井や広い廊下、数多くの専用処置室を備えている大規模で近代的な病院でした。

同行された外交官の方にお聞きしたところ、タイ国は平地に恵まれており、土地価格が安定的であることによる特徴との説明を頂きました。

随所に設けられた室名のプレートはハイビスカスの白い花のワンポイントがあり、そばに必ず設置されている花束のオブジェと相乗効果で緊張を和らげてくれます。

帰りがけ病院の出入口は吹き抜けの広いホールとなっており、国王夫妻の巨大な肖像画が見送られ、ここが王国であることを実感しました。

## 助産学高度先端スキルラボラトリー

### の設置

平成24年度山形大学医学部看護学科に助産師コースが新設され、この年に入学した学生より若干名を選抜し平成26年より助産師教育を開始します。それに先立ち、平成25年1月に「助産学高度先端スキルラボラトリー」を開設し、オープンセレモニーを開催しました。開設にあたり、結城章夫山形大学学長、嘉山孝正学長特別補佐、山下英俊医学部長、久保田功附属病院院長、倉智博久附属病院副院長（当時）、小林淳子看護学科長（当時）はじめ多くの方々のご指導とご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

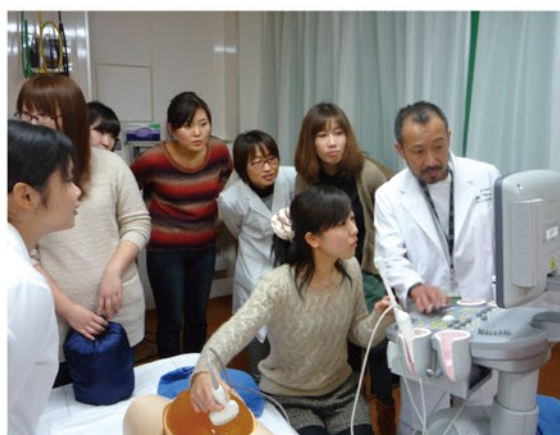
わが国の産科医療は、出産年齢の高齢化に伴うハイリスク妊産婦の増加や産科医師不足、さらに助産師の偏在化が問題とされ、助産師には産科医との役割分担を行いながらより高度な助産診断や緊急事態への対応が求められています。特に従前に比して超音波診断法、会陰縫合術や新生児救急蘇生は、助産師教育の中で強化される項目として位置づけられました。

「助産学高度先端スキルラボラトリー」は、超音波診断胎児ファントム、超音波断層シス

ターや胎児機能不全が診断できる胎児心拍監視装置などを整備した教育環境となっています。

現在は、このようなラボラトリー整備だけでなく、産科医師の指導のもと教員や実習指導者の助産診断と技術のスキルアップトレーニングも段階的に行っています。また、同時期に、6階東病棟副看護師長と本学科母性看護学教員が6ヶ月間の人事交流を行い、相互に技術の確認や到達度について情報交換をしながら学生の実習環境を整えています。

今後は、さらに附属病院と看護学科の連携をとりながら地域の産科医療を支える助産師を育成していくことをめざしておりますので、助産師教育に対しご理解とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。





## 卒後臨床研修 のさらなる充実をめざして

### ーレジデントハウスの 完成と今後の構想ー

卒後臨床研修センター長  
鈴木匡子



山形大学医学部附属病院では現在53名の初期臨床研修医が日夜研鑽を積んでいます。平成25年度も東北地方の大学病院としては最も多い22名が新たに臨床研修を始めております。

全国的にみて、東北・北海道地区の病院は臨床研修医確保が非常に難しい状況で、研修内容の充実を図るのはもちろんのこと、環境整備をはじめとした様々な努力がなされていきます。当院では、研修環境整備の一環として、昨年6月、大学構内に研修医専用宿舎であるレジデントハウス(26戸)を建設しました。洋室のフローリングの明るい室内にキッチン、クローゼット、ユニットバス、ウォッシュレットトイレ、ベランダ等を備え、さらに医学部附属図書館にも24時間アクセスできる無料のインターネット回線を完備

し、研修に最適な環境になっています。レジデントハウスの敷地内には、駐輪場、駐車スペース、各戸専用トランクルームも併設されています。研修医からは総合的に大変良い評価をいただきました。レジデントハウスは研修医専用で2年間の研修終了とともに退居となるため、来年度以降の研修医の希望にも対応可能と考えています。

今年度は、レジデントハウスの他に、研修医へのアンケート調査で希望の多かった女性専用仮眠スペースを、女子更衣室内に整備しました。仮眠スペースは稼働率も高く、夜間の研修にも対応できる環境が整いました。

このような設備面だけでなく、指導体制の更なる充実も図っています。当院での研修の特徴である担当教員制度により、研修医ひとりひとりに生活面を含むきめ細かな指導を続けるとともに、月に一度センター教員全員で研修全体の進捗状況を確認しています。さらに研修医へのアンケート



で要望の高い事項について臨床に直結するセミナーを開催し、多くの参加者を得ました。また、現在は全国からやる気のある研修医が集まるよう卒後臨床研修センターホームページの充実も進めています。

初期臨床研修には、地域の研修協力病院での経験がきわめて重要です。昨年度から医学部生の広域連携臨床実習が開始され、医学部教育から初期臨床研修まで、切れ目なく地域の医療機関と連携を保ちながら医師の養成をおこなう体制ができました。今後も山形大学医学部附属病院および関連各病院の職員の皆様のご協力をいただきながら、センター教員一同よりよい臨床研修をめざしていきたいと考えておりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

## 外来化学療法室 について

外来化学療法室は、患者様へ副作用の説明と対処方法指導や心身の不安への対応をしながら、抗がん剤の投与を安全に行い、快適な環境下で治療を受けて頂く事を目的として、医師・看護師・薬剤師・メディカルスタッフチームで取り組んでいる施設です(写真1)。

山形大学医学部附属病院では、2004年11月にベッド数3床で外来化学療法室を立ち上げました。その後、2008年1月にはベッド数7床に増床するとともに「がん薬物療法専門医」である吉岡教授が室長に就任し、2010年4月には12床、そして2012年9月には、病院再

整備に伴い20床に増床され、環境面においても光・音・空気・空間でストレスを軽減できるように工夫がなされました(写真2)。また、緊急時の対応に万全を期すべく腫瘍内科外来も隣接されました。これに伴い、外来がん化学療法の実績は、グラフに示した通り着実に伸びて来ています(図1)。

本来「辛い事をする場所」であるだけに、安全で確実な化学療法の施行と、リラックスした環境下でホスピタリティーマインドに溢れた対応と適切な情報提供を行い、患者様に安心して治療を受けて頂けるよう努力を続ける所存です。

写真1



写真2



図1





人間性豊かな信頼の医療



introduction

## 手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』

### 運用開始について

当院では2012年5月に手術支援

ロボット「ダ・ヴィンチS」が導入されました。その後、術者、助手、麻酔科医、看護師、臨床工学士からなる「チームダ・ヴィンチ」による数回にわたるトレーニングおよび綿密なシミュレーションを行った後、7月30日に記念すべき第一例目のロボット支援内視鏡下根治的前立腺摘除術(RALP)が泌尿器科富田教授執刀の下で施行されました。手術はトラブルなく成功裏に終了し、その際指導者として立ち会っていただいた藤田保健衛生大学泌尿器科の白木教授からチーム全体としてのパフォーマンスレベルに高い評価をいただきました。その後、月に1〜2件のペースで順調にRALPが施行されております。現在はほぼ週1件のペースですが、6月末まで予約が入っている状況です。症例を重ねるごとに、入室から手術開始までの時間、手術時間、コンソール時間なども短縮されてきました。また、従来の開腹前立腺全摘除術(RRP)に比較して、術中の出血量は平均30ml程度と、従来の開腹手術と比較すると50分の1程度にとどまっております。手術の安全性は格段に向上したといえます。また、術後の回復も早く、尿失禁の程度も改善を認めています。最近ではRALPを希望して泌尿器科外来を受診される患者さんも増えてきており、今後のRALP件数もやりに増加していく



と期待されます。また、前立腺に限らず、膀胱がんや腎がん、さらには婦人科や消化器外科領域への応用に向けて多診療科からなるワーキンググループが活動しています。

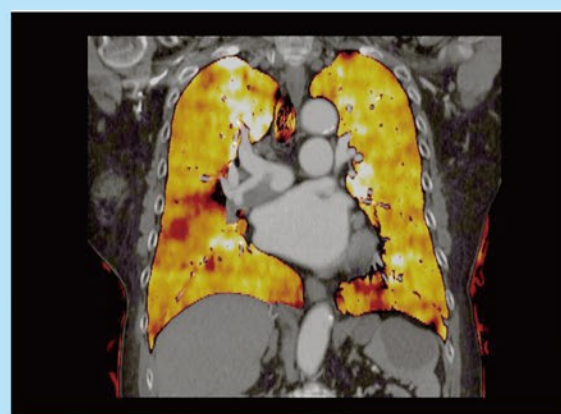
腎泌尿器外科

加藤 智幸・富田 善彦

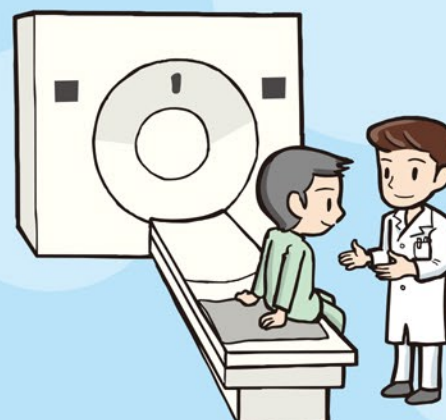
## dual energy CT

### 先端医療の紹介

#### 放射線診断科



dual energy CTでは、肺の血流も詳しく検査することができます



約6年前、当院放射線部に2台のCTが導入されました。当時としては画期的な進化を遂げた最新の64列MDCTでした。それまでは1列と4列のCTでしたから、はるかに精密に体の中を検査することができるようになりました。当時は、「軽自動車がスーパーカーになったみたいだ」と紹介したものです。

病院再開発にともない、放射線部も生まれ変わろうとしています。CTは移設することになっていましたが、移設すると稼働できない時期が生じますし何より移設費がかかってしまいます。増設が必要なものもあり、3台まとめて新たなCTを安価に導入することにいたしました。今回新たに稼働しているのは、東芝社製の320列、80列CTとシーメンス

社製の128列 dual energy CTです。

「dual energy CT」は、2つのエネルギーのX線を使うという全く新しい発想で作られたCTで、きわめて時間分解能に優れています。CTによる脳や心臓の血管造影検査が精密に行えるようになるわけです。目下320列CTとの優劣が私どもの最大の関心事です。また、体内の物質を分離して分析ことができ、尿管結石の診断や四肢の画像検査などにも応用できます。

CTの進化は日進月歩と言えます。無理やり車に例えるなら、2輪駆動のスーパーカーが、4輪駆動になったみたいなものでしょうか。見た目には違いが判らないかもしれませんが、実はとてつもなくすごいのです。

## 行事

## スチューデントナース認定証授与式

山形大学医学部看護学科では平成24年8月27日にStudent Nurse3期生の認定証授与式が行われました。この制度は実習前に実技試験を行い、知識だけでなく実践能力が一定の水準に達した学生にこの称号を与え、附属病院において実習することを許可するものです。学生の実習に対する自覚を高め、指導に当たる教員や看護師の意識を高め、学生実習に対する大学の責任を示すことを目的としています。

実技試験では附属病院看護部の方々に外部評価者になっていただき、評価後には実践的な助言をしていただきます。学生からは「病棟ではこうした方がいいと教えてもらった」、「プレッシャーを感じたが、やさしく指導・指摘して下さったのでとても勉強になった」等の意見が聞かれています。



実習後のアンケートでも約60%の学生が実習中の「自己学習」や「基本的な看護行為」を十分行っていると答え、制度導入後学生が一層勉強に励むようになり、教員や指導者の意識も向上しています。

## 行事

## スチューデントドクター認定証授与式

平成25年1月21日(月)、山形大学医学部大講義室において、「Student Doctor 認定証授与式」を開催しました。

「Student Doctor」とは、共用試験(CBT, OSCE)及び全ての移行試験の判定に合格した4年生に対して山形大学医学部として認定するもので、本学が全国に先駆けて導入し今年で5年目になります。臨床実習に入る学生に自覚とモチベーションを与えると同時に、実習中に学生が医行為をすることに対して、医学部として学生の質を保証・担保し、社会に対して大学としての姿勢や責任を示すことをねらいとしています。さらに、患者さんにも(一般社会にも)自分達が、あるいは地域全体で若い医師を育てているという意識を持ってもらうこともねらいの一つとなっています。

当日は、嘉山学長特別補佐、山下医学部長、久保田附属病院長、各講座の教授、指導教員並びに附属病院の看護部長と師長が列席する中、上記試験に無事合格した4年生122名が白衣に身を包んで参加しました。厳粛な雰囲気の中、嘉山学長特別補佐並びに山下医学部長のあいさつ及び鈴木教務委員長からの趣旨説明の後、学生代表である池田美緒さんに認定証が授与されました。

引き続き、久保田附属病院長、那須看護部長から、学生への期待、実習中の心がまえ等について、それぞれあいさつがありました。

学生は、これまで4年間の座学で学んだ医学的な基礎知識を基によいよ臨床の現場において実習することになります。今後1年半にわたる長い臨床実習の間に医学生としても人間としても大きく成長して、将来の医学・医療を担う多くの人材が育つことを期待します。



## 行事

## 医療安全管理に関する講演会

医療安全管理部では、大学病院におけるリスクマネジメントの重要性を理解し、医療事故等を未然に防止することを目的として、職員に対する医療安全管理に関する講演会を開催しています。

昨年度は、6月12日(火)に医学部の原忠篤事務部長(当時)を講師に迎え、「クレーム対応の実例―体験事例からの考察―」と題して、これまでの豊富な経験に基づいたクレーム対応のコツ等についてご講演いただきました。また、11月13日(火)に開催された講演会では、本院耳鼻咽喉科の石田晃弘助教を講師に迎え、「嚥下の基礎と嚥下障害に対する取り組み」と題して、嚥下障害診断のポイント等について、動画も取り入れて分かり易くご講演いただきました。両講演会とも非常に参考になる内容だったため、熱心に耳を傾ける参加者の姿が多く見られました。



なお、2回の講演会とも会場に入りきれないほどの大盛況となったことから、次年度の講演会については、ライブ配信を行い別室でも聴講できるようにすることになりました。

## イベント

## ハートフルコンサート

平成24年12月13日にハートフルコンサートが附属病院の外来ホールを会場に実施されました。同コンサートは、毎年七夕とクリスマスの年2回開催しているもので、学生が組織する医学部室内合奏団が主催し今回で第33回目となる歴史と伝統のあるイベントです。



コンサートでは、開会に当たり、合奏団の吉村団長(医学科3年)及び佐藤慎哉副病院長の挨拶の後、「サンタがまちにやってくる」「美女と野獣」「We are the world」など、山形の静かな冬と華やいだクリスマスの雰囲気に対応しい全7曲が披露されました。

会場には、幅広い年齢の患者さんをはじめ、医師・看護師・メディカル職員等約200名の参加があり、曲の合間のパフォーマンスにも沸きながら、皆楽しい一時を過ごすことができました。最後に、患者代表者等から感謝状及び花束の贈呈の後、盛況の内に無事に閉会しました。次回は平成25年6月に開催する予定です。

## 行事

## 山形大学医学部公開講座を開催

山形大学医学部では、1月26日(土)に山形医学交流会館において公開講座「ここまで来たがん診療～治療の最前線と在宅医療・ケアの実現と課題～」を開催しました。本講座は平成10年から年1回開催しており、当日は約100名が参加。講師として、医学部の教員を始め、国立がん研究センター中央病院消化管内科医員 岩佐悟氏、放射線医学総合研究所重粒子医科学センター医長 野宮琢磨氏にご講演いただき、がん治療の最新の話について理解を深めました。

参加者からは「最前線から在宅医療まで広範囲の内容を勉強できた」「実践における知識・技術を知ることができた」などの感想が聞かれ、有意義な時間を過ごされたようでした。



## 行事

## 保険診療に関する講演会について



附属病院保険診療委員会では、保険医療機関に義務づけられている、臨床研修病院の施設基準を満たすため、年2回「病院教職員を対象とした保険診療に関する講習会」を企画しております。

昨年度の第1回目は6月27日(水)に、東北厚生局山形事務所から、指導医療官佐山恒夫氏並びに審査課長補佐澤田弘睦氏を講師にお迎えし、「保険診療の理解のために」並びに「保険医の各種届出について」の二つのテーマについてご講演いただきました。

また、第2回目は平成25年2月20日(水)に大学院医学系研究科医療政策学講座の村上教授を迎え「適切な保険診療と病院経営」と題して、開催しました。

講演では、病院で行われる様々な診療行為の結果が、診療報酬請求額、患者数、平均在院日数、病床稼働率、手術件数、DPC/PDPSの機能評価係数等に反映され、病院収入が増減する仕組みについて、わかりやすくご説明いただきました。

保険診療委員会では、今後も保険診療に関する講演会を企画し、皆様にご案内してまいります。

|      |         |                          |                         |       |                                           |
|------|---------|--------------------------|-------------------------|-------|-------------------------------------------|
| 退職   | 24.3.31 | 教授                       | 人体病理学講座                 | 本山 倭一 | 定年退職（無職へ）                                 |
|      | 24.3.31 | 教授                       | 地域看護学講座                 | 叶谷 由佳 | （横浜市立大学へ）                                 |
|      | 24.3.31 | 講師                       | 公衆衛生学講座                 | 寶澤 篤  | （東北大学へ）                                   |
|      | 24.3.31 | 講師                       | 皮膚科                     | 松永 純  | （公立置賜総合病院へ）                               |
| 要請退職 | 24.3.31 | 講師                       | 耳鼻咽喉科                   | 那須 隆  | （市立病院済生館へ）                                |
| 退職   | 24.3.31 | プロジェクト教員（准教授）（個別契約任期付教員） | 分子疫学研究所（COE）            | 成松 宏人 | （准教授へ）                                    |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 教育研究支援センター              | 佐藤道比古 | （准教授 附属実験実習機器センターより）                      |
| 配置換  | 24.4.1  | 教授                       | 地域看護学講座                 | 大谷 和子 | （看護部 看護部長より）                              |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 整形外科講座                  | 橋本 淳一 | （講師 整形外科より）                               |
| 昇任   | 24.4.1  | 准教授                      | リハビリテーション部              | 佐々木 幹 | （助教 リハビリテーション部より）                         |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 光学医療診療部                 | 牧野 直彦 | （講師 光学医療診療部より）                            |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 腫瘍分子医科学講座               | 岡田 雅司 | （助教 解剖学第二講座より）                            |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 整形外科                    | 土屋 登嗣 | （助教 整形外科講座より）                             |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 眼科                      | 望月 典子 | （助教 眼科学講座より）                              |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 耳鼻咽喉科                   | 渡邊 知緒 | （助教 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座より）                      |
|      | 24.4.1  | 教授                       | 脳神経外科講座                 | 嘉山 孝正 |                                           |
| 復職   | 24.4.1  | 准教授                      | 薬理学講座                   | 小原祐太郎 | （東北大学大学院薬学研究科 助教より）                       |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 公衆衛生学講座                 | 成松 宏人 | （プロジェクト教員（准教授）（個別契約任期付教員） 分子疫学研究所（COE）より） |
| 採用   | 24.4.1  | 採用 講師                    | 外科学第二講座                 | 中村 潤  | （仙台赤十字病院より）                               |
|      | 24.4.1  | 採用 講師                    | 第二内科                    | 阿部 靖彦 | （東北大学高等教育開発推進センター-助教より）                   |
|      | 24.4.1  | 教授                       | がん臨床センター                | 根本 建二 | 雇用更新～29.3.31                              |
| 更新   | 24.4.1  | 教授                       | 高次脳機能障害学講座              | 鈴木 匡子 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 教授                       | 総合医学教育センター              | 佐藤 慎哉 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 教授                       | 基礎看護学講座                 | 田中 幸子 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 教授                       | 地域看護学講座                 | 細谷たき子 | 雇用更新～27.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 外科学第二講座                 | 大泉 弘幸 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 准教授                      | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座           | 小池 修治 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 外科学第一講座                 | 平井 一郎 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 第一外科                    | 磯部 秀樹 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 第一外科                    | 蜂谷 修  | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.1  | 講師                       | 第二外科                    | 江村 隆起 | 雇用更新～29.3.31                              |
| 退職   | 24.4.1  | 講師                       | 第二外科                    | 吉村 幸浩 | 雇用更新～29.3.31                              |
|      | 24.4.30 | 講師                       | 脳神経外科                   | 竹村 直  | （山形済生病院へ）                                 |
| 要請退職 | 24.5.31 | 准教授                      | がん臨床センター                | 野宮 琢磨 | （放射線医学総合研究所へ）                             |
| 退職   | 24.5.31 | 講師                       | 第二外科                    | 江村 隆起 | （県立中央病院へ）                                 |
| 配置換  | 24.6.1  | 講師                       | 第二外科                    | 中村 潤  | （講師 外科学第二講座より）                            |
|      | 24.6.1  | 教授                       | 臨床腫瘍学講座                 | 吉岡 孝志 | 任期更新～29.5.31                              |
| 更新   | 24.6.1  | 講師                       | 皮膚科                     | 川口 雅一 | 任期更新～29.5.31                              |
|      | 24.6.16 | 講師                       | 産科婦人科                   | 高橋 俊文 | 任期更新～29.6.15                              |
| 配置換  | 24.6.19 | 准教授                      | 病理診断学講座                 | 加藤 哲子 | （准教授 人体病理学講座より）                           |
| 昇任   | 24.7.1  | 講師                       | 放射線診断科                  | 鹿戸 将史 | （助教 画像医学講座より）                             |
|      | 24.8.1  | 講師                       | 脳神経外科                   | 加藤 直樹 |                                           |
| 採用   | 24.9.30 | 准教授                      | 病理診断学講座                 | 加藤 哲子 | （鶴岡市立荘内病院へ）                               |
|      | 24.9.30 | プロジェクト教員（准教授）（個別契約任期付教員） | 先端分子疫学研究所（GCOE）         | 加藤 幸成 | （東北大学へ）                                   |
| 昇任   | 24.12.1 | 准教授                      | 分子病態学講座                 | 窓宇利正善 | （講師 分子病態学講座より）                            |
|      | 24.12.1 | 講師                       | 眼科                      | 西塚 弘一 | （助教 眼科学講座より）                              |
| 研究休職 | 25.1.1  | 講師                       | 放射線診断科                  | 鹿戸 将史 | 研究休職～25.6.30                              |
| 退職   | 25.1.31 | 准教授                      | 内科学第三（腫瘍・内分泌代謝・血液内科学）講座 | 大門 眞  | （弘前大学へ）                                   |
|      | 25.3.1  | 准教授                      | 内科学第三（腫瘍・内分泌代謝・血液内科学）講座 | 川並 透  | （講師 第三内科より）                               |
| 昇任   | 25.3.1  | 講師                       | 輸血部                     | 加藤 裕一 | （助教 輸血部より）                                |
|      | 25.3.1  | 教授                       | 生理学講座                   | 藤井 聡  | 任期更新～30.2.28                              |
| 更新   | 25.3.1  | 准教授                      | 内科学第一（循環・呼吸・腎臓内科学）講座    | 今田 恒夫 | 任期更新～30.2.28                              |

## ISO9001再認証審査を受審

本院では、医療の質の向上を目的として平成16年2月にISO9001を取得しました。以来、品質マネジメントシステムは理念を踏襲し具現化する仕組みとして活用されており、ISOに基づく活動は本院の医療の質の向上に大きく役立っています。

2012年より、がん臨床センター部門の中にPETセンターとリニアックセンターが部署として加わり、今回受審しました。品質目標にPET稼働率を掲げたこと、リニアックセンターにあるご意見・ご感想ノートの活用は患者サービスの向上に繋がっていることなど好評価をいただきました。

なお、審査は3日間にわたり、消化器病センター、リハビリテーション部、企画管理課など病棟、施設、事務部門等29部署が審査され、結果、規格要求事項に適合と判断されました。

ISO活動も成熟期にはいり、PDCAサイクルなど一層の継続的改善と新人への取り組みに対する教育が求められてきています。ISO事務局では、新任ISO推進委員に対する説明会、内部監査員養成研修、内部監査事前説明会等を開催し、医師、看護師だけではなく事務職員も内部監査員としてISO活動を行い、職員一丸となって品質マネジメントシステムの維持、発展に努めています。



## 祝 学会賞等受賞

**小林 真紀 先生** ..... 内科学第一講座  
第94回日本呼吸器学会東北地方会・第124回日本結核学会東北支部学会  
最優秀発表賞  
平成24年3月

**阿部 祐紀 先生** ..... 内科学第一講座  
第94回日本呼吸器学会東北地方会・第124回日本結核学会東北支部学会  
最優秀発表賞  
平成24年3月

**高橋 一広 先生** ..... 産婦人科  
第64回日本産科婦人科学会学会講演会グッド・プレゼンテーション賞  
平成24年4月

**布宮 慶子 先生** ..... 内科学第一講座  
America Thoracic Society Travel Award 2012  
平成24年5月

**和根崎 真大 先生** ..... 内科学第一講座  
第154回日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 優秀賞  
（症例発表部門）  
平成24年6月

**亀井 啓太 先生** ..... 内科学第一講座  
第196回日本内科学会東北地方会  
「初期研修医プレナリーセッション」目指せ総合内科専門医 若手奨励賞  
平成24年6月

**工藤 光介 先生** ..... 内科学第一講座  
（財）地域医学研究基金腎疾患と高血圧研究会平成24年度優秀研究賞  
平成24年7月

**八島 望 先生** ..... 麻酔科  
日本麻酔科学会北海道・東北支部第2回学術集会 in 札幌 優秀演題  
平成24年9月

**辺見 大剛 氏** ..... リハビリテーション部  
第23回東北作業療法学会 学会長奨励賞  
平成24年9月

**高橋 一広 先生** ..... 産婦人科  
平成24年度日本女性医学学会 学会奨励賞  
平成24年10月

**奈良崎 正俊 氏** ..... 輸血部  
平成24年度日本臨床検査技師会北日本支部医学検査学会 功労賞  
平成24年10月

**白田 亨 氏** ..... 検査部  
東北地区医学検査学会 学会学術賞  
平成24年10月

**結城 厚子 氏** ..... 看護部  
平成24年度医学教育等関係業務功労者表彰  
平成24年11月

**鈴木 れい子 氏** ..... 看護部  
平成24年度医学教育等関係業務功労者表彰  
平成24年11月

**佐藤 牧子 氏** ..... 検査部  
山形県医学検査学会 学会学術賞  
平成24年11月

**高橋 一広 先生** ..... 産婦人科  
山形大学優秀教育者賞  
平成24年12月

**小原 祐太郎 先生** ..... 薬理学講座  
第28回日本薬理学会 学術奨励賞  
平成24年12月

**石野 光則 先生** ..... 内科学第一講座  
第155回日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 優秀賞  
（症例発表部門）  
平成24年12月

**成味 太郎 先生** ..... 内科学第一講座  
第155回日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 優秀賞  
（症例発表部門）  
平成24年12月

**西塚 弘一 先生** ..... 眼科  
第8回 Ophthalmic Surgery File Award New Concept シルバーアワード  
平成25年1月

**高橋 賛美 先生** ..... 内科学第三講座  
日本二分育椎・水頭症研究振興財団 研究助成賞  
平成25年3月

## 編集後記

春の到来とともに、2年前、3月11日の東日本大震災の記憶が蘇ります。被災地のあるところで、改めて被災された皆様に、一日も早く復興をお祈りいたします。被災地と地域とのつながり、復興に繋がるものと信じています。国際交流（高度医療協力など）の状況等を紹介しており、医学部及び附属病院一体で、来を見据えた取り組みの一端を、ご理解いただけたのではないかと思います。

今回、誌面では紹介できませんでしたが、がん医療の均てん化を図るための重粒子線がん治療施設設置の取り組みや、超高齢化社会を迎えるなかで、地域医療の新たな枠組み作りとして、在宅看護教育センターに、また、今年で医学部が創立40周年を迎えます。医学部附属病院では、今以上に医学部と一体となつて、「人間性豊かな信頼の医療」を実現し、高度・先進医療の推進とともに地域社会への貢献を果たすため教職員一同努力してまいります。

（総務課長 成田博昭）

- 発行 平成25年4月25日
- 発行所 山形大学医学部附属病院  
〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2  
TEL 023(633)1122(代)  
「山形大学病院ニュース」編集委員会
- 編集委員長 久保田 功
- 事務担当 総務課庶務担当 連絡先 TEL 023(628)5006
- 印刷所 坂部印刷株式会社